

水島鏡也先生の学校経営に思う

つい最近、京都大学がその学長を広く世界中からも公募して、選出する方針を決めたということが新聞で報道されました。これは、わが国がグローバル化の中で生き残るために、大学教育も抜本的な改革を必要としているという認識から生まれたものだと思います。しかし、学長がどれだけ有能でも、教職員や学生諸君全体がその方針を是としてその実現に献身する気持ちにならなければ改革は達成できません。国立大学の法人化の後、わが国の国立大学でもノーベル賞受賞者やそれに匹敵する国際的業績を上げられた方が学長に就任・活動された事例はありますが、そのためにその大学が抜本的に改革できたという訳ではありません。リーダーが優れた方であることは絶対必要ですが、フォロワー、またはコラボレイターである教職員や学生諸君が、そのリーダーの理念と人間性とを絶対的に信頼し、リーダーの掲げる理想の実現に全面的に協働しようとするのも望まれます。

その点、わが水島鏡也先生は、神戸高等商業学校の運営でその体制をもの見事につくり上げられました。これは一つには水島先生が学校経営者として人を引きつける人間性と新しい経営方針をお持ちだったことにもよります。この「凌霜」誌前号に掲載された新野本会特別顧問のエッセーにもありますように、

水島先生は素晴らしい人間性と、全く新しい構想をお持ちでした。先行した全国の高等教育機関（高等学校や高等商業学校や高等工業学校および高等農林学校など）が、すべて中学校卒業生だけを対象にし、商業学校や工・農学校卒業生の受験を認めていなかったのに、神戸高商に限って全国の商業学校卒業生を受験させることにされました。そのため、日本中の商業学校の1番とか2番とかの成績優秀者が志願することになりました。

しかも、中学卒を1部学生、商業卒を2部学生とし、予科1年間は、前者には簿記、後者には数学、物理、化学などそれぞれの学校では学習していないことを徹底して教えるとともに、外国貿易に従事する専門職になるための英語教育も厳格に実施されました。また、高等学校の入学試験が7月に行われていた当時、あえて3月に実施されることにより、神戸高商の入試失敗者が高等学校に合格するという形まで生まれました。さらに、高等教育の普遍化の重要性を考え、今日では一般的になっている社会人向けの夜間公開講座の制度まで設け、当時既に1万人近い受講者を持つまでになりました。

水島先生のこうした構想の中には、当時の文部省からも、また、先行した後の東京高等商業学校などからも強い反対を受けたものもありました。しかし、水島先生は我慢強くその実現に努力され、すべてを達成されました。

こういう改革ができた第2の重要な条件は、水島先生が当時学生諸君から人格化されるほど尊敬されるところに、先生方からも敬愛され全面的な協働体制をつくり上げられていたことで、さらに、次のことも挙げておかなければなりません。すな

わち、水島先生ご自身、明治36年に校長になられた時が4歳の若さで、先生方も20代30代の方々が多く、さらに、まだ帝国大学に経済学部が設置されていない時期でもあって、自分たちが、東京高商とともに日本の経済学・商学・経営学を築き上げるといふ、意気込みがあつたことも挙げなければなりません。そういえば、まだどこにも純経済学・商学の専門雑誌が無かつた当時、神戸高商で「国民経済雑誌」が東京高商の瀧本・関の両教授と神戸の津村教授が編者となつて明治39年に創刊されることになりました。今でこそ全国の大学がそれぞれの機関誌を発行していますが、この「国民経済雑誌」はひとり神戸高商だけでなく、全国の経済学・商学の研究者が執筆する専門誌でした。

こうした大学の新しい構想やその達成は、トップのアイデアだけでなく、それがコラボレイターになる教職員の心と行動を誘う条件を持つていなければなりません。今、言うまでもなく、神戸大学も京都大学だけでなく、大きな試練に直面しています。しかもどの大学でも現代は色々な理由もあつて、かつての水島先生の時のように大方の教職員の全面的な信頼を得、学生諸君から人格化されるほどの尊敬を集められるリーダーが簡単に得られる時代ではありません。しかし、そうであれば、先生方を中心に卒業生や学生が一体になつて改革を進める素晴らしい構想づくりをし、その実現のために努力してゆくことが必要です。本誌でも高崎正弘凌霜会理事長が、水島先生の生誕150年記念事業をこの5月を皮切りに先生のご出身地で水島公園のある中津市での行事と、この秋の神戸大学のホームカミングデーで

の関連行事など執り行うことを述べておられます。どうか皆さんもこの機会に水島鍬也先生のことを偲び、わが母校の飛躍の方策を考えてくださればと思います。

今期も皆さんからのご寄附に感謝

毎号ご報告を申し上げますように、今期もまた皆さんから当後援会にご寄附を頂戴しました。山田博明様(昭29・法) 100万円、杉田文夫様(昭36・経済Ⅱ) 3万円、大西茂雄様(昭42・経済) 10万円、佐藤禎雄様(昭31・法) 10万円、森安陸夫様(昭31・経済) 10万円の皆さんがそれぞれです。お蔭様で、この平成25会計年度のご寄附総額は917万3876円になり、平成16年度に皆さんにご寄附のお願いをするようになってから今日までに、2億9365万4760円までになりました。皆さん本当にありがとうございます。ご推察くださいますように、神戸大学の六甲台5部局がさらなる発展を図ろうとすると、これからもそれを支える基金強化が望まれます。どうかこれから皆さんの強いご支援を心からお願い申し上げます。

いつも書かせて頂いていますように、寄附金の送り先は次の通りです。よろしくお願いいたします。

◎銀行送金の場合(銀行からの通知がどうしても遅くなり、領収書等のご送付が遅れる可能性がありますので、ぜひご送金のことを事務局にご一報ください)

銀行名 三井住友銀行六甲支店

口座番号 普通預金 4069496

口座名義 公益財団法人神戸大学六甲台後援会

◎郵便振替の場合（通信欄に卒業年次と出身学部をご記入ください）

口座番号 00980-9-116772

口座名義 公益財団法人神戸大学六甲台後援会

〒657-0068

神戸市灘区篠原北町4-11-5

公益財団法人神戸大学六甲台後援会事務局

電話・FAX (078) 861-3013

E-mail: rokodaifund@kobe-u.com

水島鍊也先生「生誕150年記念事業」のご紹介

生誕150年記念事業実行委員長 高 崎 正 弘

はじめに

今年、神戸高等商業学校水島鍊也初代校長の生誕150年を迎えます。150年という長き時を経て、なおその記念行事を企画すべきではないかという話が出された時、正直言って私も含めやや意外な感をもたれた凌霜会員も多かったと思います。しかし、先生の残された足跡を調べるうちに、今まさに、高等教育界のみならず社会全体が直面している諸課題に対する多くの示唆を残しておられることを学び、出来る限り多くの皆さんにこのことを知っていただきたいとの思いから実行委員会を立ち上げた次第です。

今回の事業の理念・意義・狙いは、水島神戸高商初代校長の教育者としての姿勢を振り返ることを通じて、今、我が国教育界のみならず社会全体が問われている「人」を基本とした血の通った繋がり・絆に思いを馳せ、明日の神戸大学や地元神戸、

更には先生の生誕地である大分中津の活性化に少しでも繋げていきたい、まさにこの一点に尽きます。決して思い付きや懐古趣味で始めたものではありません。

今は亡き平井泰太郎先生が執筆された名著「水島鍊也」によりますと、元治元（1864）年6月29日大分中津生まれの先生と神戸とのご縁は、明治10年、実父のご逝去をきっかけに姫路の伯父に引き取られ、翌年、姫路中学に入学されたことに始まっています。長じて教育界のみならず実業界の経歴を経て、我が国高等教育界、就中^{なかんずく}中等商業教育界の揺籃期に大活躍され、関東大震災等の影響で議会決定から遅れること6年、昭和4（1929）年の神戸商業大学への昇格を待たず、その前年に逝去されました。この間、大学昇格に目途がついた大正14（1925）年には、教授会、凌霜会、学生による留任懇願運動が湧きおこるなか、惜しまれつつ神戸高等商業学校長の職を辞します。